



# “新常态”を見据えた アクティブ運用のススメ

コロナ・ショック後の動揺も落ち着き始めた中、社会・経済の新常态（ニューノーマル）到来が予想される。企業活動、投資動向にも変化が起こり得る一方、見通しが不透明な中では、より選別投資が重要になるだろう。新常态の世界を見据えた運用提案やコロナ禍の今だからこそ、注目したいファンドを紹介する。



## Part1 有識者に聞く

### 資産運用提案のポイント

- 1 今後も経済やマーケットで経験していない変化が起こり得るため、リスクコントロールは難しくなる
- 2 「世界経済の成長」が失われている中、重要なのは投資戦略の再考
- 3 ワクチンの目途が立つまで、まとまった金額での積極的な投資提案は避ける



FPアソシエイツ&コンサルティング  
代表取締役

神戸 孝氏

### 投資対象の成長期待や 分散のあり方を再考する

——コロナ・ショック後の経済やマーケットを振り返って、現在の投資環境をどのように捉えていますか？

株式市場の変動性が高く、新たな投資テーマも出てきているため、楽しみたい、儲けたいと思って行う「趣味としての投資」にとっては悪くない状況と言えるでしょう。タイミングを見計らって安く買い値上がりしたら売る、といった個々の相場観による投資は始めやすいかもしれません。

一方、将来のライフプランの実現に向けて、お金にも働いてもらうために行う「仕事としての運用」にとっては厳しい状況です。世界規模の新型コロナウイルスの流行は誰にとっても初体験の出来事であり、今後も経済やマーケットで想像もしなかった変化も起こり得ます。ポートフォリオ運用で分散投資を進めたとしてもリスクをコントロールするのが難しく、資産運用のアドバイスも慎重にならざるを得ません。

——今後、資産運用をするうえでベストな考え方をお教えください。

従来からリターンの源泉として語られてきた「世界経済の成長」が失われているということを前提に考えるべきです。2019年までなら、インデックスファンドを通じて世界中に分散投資していれば年数%程度のリターンが得られましたが、しばらくは難しいでしょう。

他方、コロナ禍で大きくダメージを受けている国や地域、セクターなどはまちまちで、厳しい状況下でも追い風を受けて業績を伸ばしているセクターや企業もあります。そのため、投資先を選別するアクティブファンドならリターンを得られるかもしれません。しかし、ファンドのタイプ以上に重要なのが投資戦略の再考です。

ポスト・コロナ時代の資産運用を考えるにあたって、先行きの不透明さは気になるところですが、オンライン化や電子化など、本来であれば数年から十年後に実現したであろう事柄が一気に進展していることにも注目しています。そうした中で、本当に成長性が見込める地域や産業は何なのか真剣に考えるべきです。ポートフォリオや分散のあり方は従来と同じでいいのかを疑う必要もあります。

コロナ禍もあって米国と中国の関係悪化が想定される中で、中国への投資比率が高い新興国ファンドをよしとすべきか。また、かつてない規模の金融緩和が広まる中、過剰流動性相場以前のマーケット間の相関関係は参考になるのかなど、あらためて考え直してみることは多いはずで。

——個人のお客さまには、どのような運用提案をしていますか？

すでに分散されたポートフォリオで運用しているお客さまには、リスクコントロールの観点から、ひとまずポートフォリオの国内外の株式比率を10%程度引き下げる提案をしました。引き下げた分の資金は投資せず現金のままです。

まだ積立投資を続けていて、ポートフォリオを構築している段階のお客さまなら、要望をお聞きしつつ投資するファンドの変更やさらなる分散も提案しています。少なくとも、新型コロナウイルスのワクチンの効果や開発の目途が立つまで、積極的な投資提案は避けたほうが無難と考えています。